

平和な世界

古堅南小学校六年 仲宗根 鈴

「戦争って本当にこわいなあ。わたしは絶対に戦争は二度とくりかえさない。」

わたしは、おじいちゃんたちとやんばるの山へ言った時の事を思い出しました。

三年前の夏休みのある日、おじいちゃんが「戦争中におじいちゃんたちが、やんばるにひなんしていた場所へいつてみようと思うんだけど、りんたちも行く？」と聞かれました。

「戦後六十年のふし目にいい機会だからみんなで行こう。」

とお母さんが言いました。

そこで、いことや、おじさん、おばさんたちを会わせて二十一人で行くことになりました。

途中休憩したりお昼を食べたりして、国頭村字とうばるという所につきました。

そこは家もなく、木や草がいっぱいでさび

しい山でした。

「おじちゃんたちは、家族八人で読谷からここまで二日間もかけて歩いて来たんだよ。」と、おじいちゃんが説明してくれました。

それを聞いた時にわたしは、あの時代は車もないのに大変だっただろうなあ。自分たちが、こんなにぜいたくだったとは、しらなかつたなあと思いました。

お母さんは

「今だったらこんな小さい子をおんぶしては絶対歩けないなあ。」

とその時八ヶ月の弟をだっこしながら言うていました。

おじいちゃんの妹のしず子おばあちゃん
は、「六十年前の戦争中に、この山にひなんさせてもらって家族を守ってくださいあってありがとうございましたと、山に手を合わせて小さな声でお礼を言っていました。

夜中になると四キロぐらいの山道をおりて、食べ物をさがしに行ってたそうです。

おじいちゃんが、

「人の畑から、イモなんかをぬすんで来てうえをしのいだんだよ。あの時代にいきいていくためには、ぬするもしたさあ。」

と言っていました。

そのあとは、みんなで約二分間ぐらい、もくとうをしました。

その間、わたしは

「もう二度と戦争はおこらないように。これから平和な世界でありますように。」

と手を合わせながら、心の中で言いました。

おじいちゃんたちは幸いにも家族全員生きのびしましたが、食べ物もなくであつい毎日と暗いところで、たいへんつらかっただろうなあと思いました。

おじいちゃんは最後に

「戦争は、人が人でなくなるんだよ。戦争は二度とあつてははらないよ。」
と言っていました。

お母さんは、

「自分たちも戦争を体験していないから、うまく伝える事ができなかったけど、今日はおじいちゃんといっしょにここに来て話が聞けて良かったなあ。りんたちも、今日の事はわすれずに、伝えていこうね。」
と言っていました。

わたしは、戦争は体験した事はないけど、おじいちゃんたちの話をきいて、戦争は二度とおこしてはいけないと思いました。

新聞やテレビでは、今でも世界のどこかで戦争がおこっていることを聞きます。世界から戦がないことをいっています。

この先ずっと、戦争がない、あらそいのない平和な世界でいてほしいです。